

2009 年度受託研究概要報告

六甲山上展望台における クリスマスイルミネーションの効果

研究メンバー

相澤孝司	デザイン学部プロダクトデザイン学科教授
曾和具之	デザイン学部プロダクトデザイン学科准教授
安森弘昌	先端芸術学部造形表現学科准教授
林口哲也	デザイン学部プロダクトデザイン学科助手

委託者

六甲摩耶鉄道株式会社

研究概要

クリスマスシーズンにおける夜景鑑賞と連動した六甲山上からのイベントとして夜景鑑賞のスポットのひとつである六甲山展望台にイルミネーションによる装飾を行うとともに、地域と連携した仕掛けを組み合わせることによる情報発信力を検証するために次のコンセプトにより研究を実施した。

1. 展望台での夜景鑑賞は南側の展望になるため、会場北側部分の柵を利用しイルミネーションを実施した。
2. 六甲山上の自然豊かな環境を配慮したデザインとし、光源にはLEDを、製作材料は県内産間伐材を使用した。
3. 地域連携では、六甲山幼稚園児と本校学生がクリスマスリースの製作ワークショップを行った。
4. サブイベントとして12月23日に六甲ケーブル山上駅構内にてキャンドルナイトを実施した。

研究成果

本研究は六甲山展望台における産学及び地域連携による実践的な研究であり、本学教員が中心となり有志学生たちを指導しながら研究を遂行した。イルミネーションでは、安森准教授のもと造形表現学科クラフト専攻木工コースの2～3年生9名が、提示されたスケッチを元に、ヒノキの県内産間伐材を用いて電飾を取り付ける枠を制作した。枠は2つのタイプがあり、家型を北側柵に12台連結して固定させ、また、コーン型を2台自立させて設置した。枠には青色及び白色のLED(10000灯)を装飾し、さらに家型の枠中央部をLED投光器(プログラム調光)により照射し様々に変化する光の演出は大変効果的であった。

六甲山幼稚園児のとクリスマスリースの製作ワークショップでは、曾和准教授の指導でプロダクトデザイン学科4年生3名が現地に出向き、六甲山で採取した、藤つる、松かさなどを使用して、ユニークな作品が完成し

た。なお、作品は点灯式においてイルミネーション枠中央部に展示された。

点灯式では、本学学生と幼稚園児が出席し、イルミネーションの幻想的な演出に感動を共有していた。

サブのイベントとなったが六甲ケーブル山上駅構内にてキャンドルナイトを実施し、相澤教授、かわい教授を中心にプロダクトデザイン学科、ビジュアルデザイン学科3年生が会場の設営を行った。

全ての研究を本学学生と取り組んだ成果として、様々な教育効果が得られたと考える。さらに、間伐材を利用したイルミネーションは、今までにない初めての取り組みであり、間伐材の有効利用の事例研究となり、環境配慮型の研究としても展開が期待できる。地域との連携では子供たちがイベントに参加できる場と仕組みがワークショップにおいて実践された。キャンドルナイトでは六甲ケーブル山上駅の空間がキャンドルによる効果的な光の演出が出来ることが確かめられた。



写真1 枠の設置作業



写真2 クリスマスリースの展示



写真3 LED10000灯を使用したイルミネーション